

平成28年12月5日

小樽港フィールド・ラーニング（O.F.L）を開催します ～近代築港の原点・小樽港に学ぶ～

小樽開発建設部では、小樽築港開始時の計画、調査、設計、施工をはじめ、我が国初の近代築港の計画、築造に携わった廣井勇博士（初代小樽港湾事務所長）の工学の考え方等を学び、永い将来にわたって小樽港北防波堤の維持補修に活かしていくことが重要と考えています。

このような趣旨から、この度、下記のとおり「小樽港フィールド・ラーニング（O.F.L）※」を開催しますので、お知らせします。

※ O.F.Lとは、「小樽港（Otaru）で実物を見ながら（Field）習得（Learning）する」の略語です。

記

- 1 日時 平成28年12月9日（金）15：00～17：00
- 2 場所 小樽開発建設部 第1会議室
- 3 講演 「蝦夷地と北海道の歴史。北海道開発の歴史」（仮称）
- 4 講師 関口 信一郎 氏（日本データサービス株式会社 顧問）
- 5 参加者 コンサル会社・建設会社の技師、研究所研究員など
約70名程度
- 6 内容 詳細は、別紙をご覧ください。
- 7 その他
 - ・ 当日、取材を希望される場合は、12月8日（木）15時までに広報官へお知らせください。
 - ・ 緊急を要する突発的事案があった場合、中止とする場合があります。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

築港課長 なか やま たか ゆき 中山 學 之 (0134-23-5205)

小樽港湾事務所 計画課長 やっ やなぎ あつし 八 柳 敦 (0134-22-6131)

小樽開発建設部ホームページアドレス <http://www.ot.hkd.mlit.go.jp/>

小樽港フィールド・ラーニング（O. F. L）の経緯

小樽港は日本近代築港の原点であり、その第一に整備された北防波堤の計画と実施における、将来の人口や地域の生産量の予測に基づく移出量の推定、他のインフラ整備に呼応した投資の必要性などの計画的観点及び耐海水性コンクリートの製作、波に粘り強い防波堤構造などの技術的観点は、今なお港湾整備の根幹となっています。

小樽築港開始時の計画、調査、設計、施工をはじめ、我が国初の近代築港の計画、築造を指揮監督した廣井勇博士（初代小樽港湾事務所長）の工学の考え方を学び、永い将来にわたって北防波堤維持補修について活かしていくことは重要なことであり、かつ、技術力向上に効果的であると考えています。

このようなことから、O. F. Lでは、小樽港（Otaru）で実物を見ながら（Field）習得（Learning）する取組を進めています。

なお、本O. F. Lは、平成24年1月の第1回を皮切りに毎年度開催され、平成28年度で第6回になります。

（※昨年は、「小樽港創成期における北防波堤施工の工夫」をテーマに開催されました。）



小樽港北防波堤の位置



100年以上現存している小樽港北防波堤の現状



昨年度開催の様子（出席者70名）